

【伽羅煤竹(きやらすすたけ)】くすんだ黄褐色。

煤竹色から派生した色名。煤竹色より明るく、高価な香木の伽羅に由来する伽羅色より暗い中間色。日本人はよほど竹が好きなようで、若竹色、青竹色、老竹色と異なる色名で成長を表現し、囲炉裏などで煤けた煤竹も銀煤竹、柳煤竹、藤煤竹などと称して微妙な色合いを愛好した。

●目次／contents

今月のニュース..... 2

ステージラボ鶴岡セッション報告
地域創造フェスティバル2026報告

財団からのお知らせ..... 6

市町村長等・議会議員特別セミナー「地域経営塾」募集開始／令和8年度「リージョナルシアター事業」スタート／令和8年度「地域創造セミナー」スタート／令和8年度「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」スタート

今月の情報..... 8

地域通信／特集 アートプロジェクト・芸術祭

今月のレポート..... 12

茨城県水戸市 水戸芸術館
『いつだって今だもんーきのうとあしたのラブストーリーー』

●ステージラボ鶴岡セッション

ホール入門コースでは“アートリレー”で講義を展開

ステージラボ 鶴岡セッション 報告

2026年7月7日～10日



ステージラボ鶴岡セッションが荘銀タクト鶴岡(鶴岡市文化会館)を会場に開催されました。今回はホール入門と自主事業の2コースで、前者のコーディネーターをコンテンポラリーダンスのセレノグラフィカ(隅地茉歩さん、阿比留修一さん)、後者をサントミューゼ(上田市交流文化芸術センター)で音楽事業を担当する田澤拓朗さんが務めました。

大ホール(1,120席)と小ホール(平土間)を有する荘銀タクト鶴岡は2018年にオープン。世界的な建築家ユニットSANAAの設計で、建物の外周が全面ガラス張りのエントランスホールになっているのが特徴です。今回はこうした市民の憩いの場として居場所機能を有する新しいタイプの施設の体験にもなりました。

●アートリレー方式に挑む～ホール入門コース

ホール入門コースの特徴は、今回初めて取り組んだアートリレー方式です。2日目のゼミ6時間を使い、美術、次いで演劇のワークショップを行い、そこで生まれた創作の種を最後のダンスのワークショップで身体の動きとして受け止め、1つの作品にまとめて発表しました。

コーディネーターの隅地さんは、リレー方式にした意図について、「予め着地点が見えると

ころではなく、自分の都合で運ぶことができない、私自身も予想がつかないところに参加者と一緒にきたかった。普段の仕事では不確定なところに漕ぎ出せないシチュエーションも多いので、この機会だからこそ若い人と一緒にそこに向かってみたかった。参加者はこの土地にとってのマレビト(外の世界から来て、土地に刺激を与え、寿いで去っていく人)なのでそれをテーマにした」と思いを語っていました。

美術のファシリテーターは、セレノグラフィカとコラボレーションした経験があり、「身体だけで表現するのではなく、衣＝美術があることで手繰り寄せられる表現がある」というアーティストの水内貴英さん。頭から被る透け感のあるチュールを用い、参加者それぞれがイメージするマレビトの衣を創作しました。

演劇のファシリテーターは、障害のある人のケアをコーディネートしている佐藤拓道さん(たんぼぼの家アートセンター HANA副施設長)。障害のある人と行っているワークを体験した後、マレビトのように謎の言葉で喋る遊びを楽しみました。「組み立てられたワークより、その場で皆さんが起こしていることのほうが面白い。それをできるだけ拾って、起きたことを肯定するのが大切」と佐藤さん。

写真

- 1: 自主事業コース「公共ホールの今と事業評価のこれから」
- 2: ホール入門コース「アートリレー 創るの巻 その③～ダンス編、そして」
- 3: 自主事業コース「創作・発表公演」
- 4: 共通プログラム「伝統文化の継承と活用～鶴岡の食文化を通して」

●コースコーディネーター

◎ホール入門コース

セレノグラフィカ(隅地茉歩[振付家・ダンサー]、阿比留修一[ダンサー])

◎自主事業コース

田澤拓朗(サントミューゼ[上田市交流文化芸術センター]事業担当係長)

●ステージラボに関する問い合わせ

芸術環境部 税光
Tel. 03-5573-4068

最後の発表では、さまざまな衣をまとい、マレビト語を話す異形の参加者が舞台上に登場。ラスト、衣を脱いで素に戻ると、そこには憑き物が落ちたような清々しい顔が並んでいました。着地点が見えない取り組みに自分と対話しながら向き合った参加者に対し、隅地さんは「自分と向き合える人は他の人とも繋がれる」とエールを送っていました。

●「展覧会の絵」を深掘り～自主事業コース

自主事業コースでは、「公共ホールの今と事業評価のこれから」について考える講義とピアノの三原未紗子さんを招いたムソルグスキーの『展覧会の絵』を深掘りするワークショップ&リサイタルの2本柱でゼミが行われました。

前者では大澤寅雄さん(合同会社文化コモンズ研究所代表)が地域創造が昨年度実施したアンケートについて報告(レター8月号参照)。参加者が事前に提出した各館のアンケートフォームの分析を踏まえながら、「評価を説明能力の向上、事業の改善、組織力の向上、政策提言に繋げること」の重要性について話し合われました。

時間をかけて行われたのが後者です。三原さんが『展覧会の絵』を演奏を交えながら、自身の楽曲に向き合う思いなどを伝え、深く掘り下げるアナリゼを行った上で、全曲演奏しました。その後、演出家の岩崎正裕さんが2時間のワークショップを行い、演奏前のプロローグなどを創作するという難題にも挑戦しました。

三原さんの演奏、岩崎さんの演出で上演された最後の発表では、亡くなった友人のために作曲された『展覧会の絵』の世界を踏まえ、「ピアノは棺」というキーワードとともに参加者が亡くなった人を思い浮かべ、記憶の中にあるその人にまつわる言葉をひとりひとりがつぶやくという感動的なシーンが展開しました。

「競うのではなく、美しいものをつくりたくてこの仕事を選んだのを思い出した」「自分の体験の中から言葉を引き出していたんだ」など、参加者も深く感じ入った体験となりました。

●鶴岡の伝統的な食文化にふれる～共通プログラム

鶴岡市は、出羽三山神社がある羽黒地域に伝わる精進料理や農家が自家採種をしながら受け継いできた在来作物などがあり、2014年に日本で初めて「ユネスコ食文化創造都市」に認定されました。市役所に食文化創造都市推進課がある鶴岡らしく、共通プログラムは「伝統文化の継承と活用」をテーマに行われました。

まず、この地の魅力に惹かれて移住し、食文化を活用した地域振興のプランナーを務める西直人さん(東北芸術工科大学教授)が食文化を語れる「鶴岡ふうどガイド」(鶴岡食文化創造都市推進協議会認定)の育成といった実践例について講義しました。

続いて、食文化コーディネーターの中野律さん(合同会社YUI代表社員)が60種類ある在来作物や、行事食、精進料理などについて紹介し、在来作物の外内島きゅうりと普通のきゅうりの食べ比べ、精進料理で用いる出汁の試飲などを行いました。

「いろいろと残っているものがあっても解説者がいないと面白さに気づけない」という言葉が印象的でした。

ステージラボ鶴岡セッション プログラム表

	ホール入門コース	自主事業コース
	開講式／オリエンテーション	
7月7日	「みなさん、初めまして!」(ダンスワークショップ) セレノグラフィカ	
	「ようこそ!ステージラボへ!」 セレノグラフィカ、津村卓	自己紹介 田澤拓朗
	全体交流会	
7月8日	「アートリレー 創るの巻 その①～美術編」 水内貴英	「サントミューゼの取り組み」 田澤拓朗
	「アートリレー 創るの巻 その②～演劇編」 佐藤拓道	「公共ホールの今と事業評価のこれから」 大澤寅雄
	「アートリレー 創るの巻 その③～ダンス編、そして」 セレノグラフィカ、水内貴英、佐藤拓道	「企画・制作担当が身につけたいスキルについて考える」 岩崎正裕、大澤寅雄、田澤拓朗
	共通プログラム「伝統文化の継承と活用～鶴岡の食文化を通して」 西直人、中野律	
7月9日	「アートリレー 創るの巻 その④～振り返り編」 水内貴英、佐藤拓道、セレノグラフィカ	「アナリゼ・ワークショップ体験&リサイタル」 三原未紗子
	「トークリレー その①～受け取るの巻」 井手葵唯、伊藤玲子、鈴木けい	「演劇ワークショップ体験」 岩崎正裕
	「トークリレー その②～尋ねるの巻」 井手葵唯、伊藤玲子、鈴木けい、セレノグラフィカ	「創作・発表公演」 岩崎正裕、三原未紗子、田澤拓朗
	「トークリレー その③～交換するの巻」 井手葵唯、伊藤玲子、鈴木けい、セレノグラフィカ	「まとめ:シリーズ企画を考える」 岩崎正裕、大澤寅雄、三原未紗子、田澤拓朗
7月10日	「みんなで種まき、これからの自分へのエール」 セレノグラフィカ、仕田佳経	「ふりかえり」 田澤拓朗
	修了式	

今回は新たに公立美術館の先進的な事例紹介も実施

地域創造フェスティバル2026 報告

2026年7月28日、29日

写真1:シンポジウム「評価はコミュニケーションだ!〜公立文化施設における評価の取り組みと活用〜」

2:おんかつ支援プレゼンテーション

小野寺光(バス・バリトン)

共演:山崎由貴(ユーフォニアム)

3:おんかつ支援プレゼンテーション

山野安珠美(箏・十七絃)

共演:早稲田桜子(ヴァイオリン)、野尻小矢佳

(パーカッション)

4:ダン活プレゼンテーション

中村駿

●地域創造フェスティバル

公立文化施設や地方公共団体が事業を企画・実施する上で参考となる情報を提供することを目的に、地域創造が開催。公共ホール音楽活性化支援事業の登録アーティスト、公共ホール現代ダンス活性化事業の登録アーティストによる実演(プレゼンテーション)、シンポジウム、セミナーなどを実施するとともに、財団事業の説明会を実施。多数のアーティストや全国の文化施設・地方公共団体関係者、専門家が一堂に集い、交流する貴重なプラットフォームとなっている。会期中に都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議を同時開催。共催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

*1 「公立文化施設における政策評価等のあり方に関する調査研究」中間報告書は地域創造ホームページに掲載。
<https://www.jafra.or.jp/library/report/2025/>

*2 地域創造では令和元年度から公共ホール邦楽活性化事業に取り組み、令和4年度からオーディションによる登録演奏家制度をスタート。その支援演奏家が昨年度のフェスティバルからプレゼンに参加。



多くのアーティストや公立文化施設、地方公共団体職員の交流の場となっている地域創造フェスティバルが7月28日、29日に東京芸術劇場で開催されました。おんかつ支援登録アーティスト54組によるプレゼンテーションやシンポジウム、地域創造の事業説明会に加え、公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)登録アーティスト6組による公開プレゼンテーションが行われるダン活全体研修会、都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議も同時開催され、猛暑の中、活気に溢れるフェスティバルとなりました。

●シンポジウムのテーマは「評価」

地域創造では令和7年度から公立文化施設(専用ホール)や文化行政における戦略的な評価のあり方に関する調査^(※1)を実施しています。今回のシンポジウムでは、昨年度実施したアンケート調査の結果を共有するとともに、実際に評価に取り組んでいる札幌市と秋田市の事例が紹介され、本調査研究の委員による質疑も行われました。

モデレーターの大澤寅雄さん(合同会社文

化コモンズ研究所代表)から主なアンケート結果より、評価の実施状況、成果や課題の傾向について報告が行われました(レター8月号参照)。

続いて、指定管理者として規模も目的も異なる6施設を運営している公益財団法人札幌市芸術文化財団総務課調整担当係長の坂本このみさんが、「財団の中長期経営計画の達成に向けた進捗の確認と、評価プロセスを通じて計画を職員に周知する」ために実施している評価の取り組みについて紹介しました。

「各施設が自己評価した後、課長職がメンバーとなった検証会議での検討を経て決定した財団評価を職員に共有しています。評価は他施設との順位を競うものではないし、一館で計画の達成を目指すのでもなく、財団全体で達成するという考え方を共有しています。市の評価軸と財団の評価軸が複層化していることが課題のひとつです」。委員の「検証会議の中で現場がピアレビュー的に話し合っているのがとても重要」というコメントが印象的でした。

また、市民の新しい活動・表現を応援する秋田市文化創造館の指定管理者であるNPO

▼ 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

法人アーツセンターあきた事務局長の三富章恵さんは、「永遠に右肩上がりは無理だという法人内での合意があり、来館者数の目標値13万人を切らなければいいという前提で事業を行っている」と言い、「前例がなく、成果を説明しづらい」同館の評価の取り組みについて紹介しました。

「この存在意義を社会に伝えることが不可欠だったので、起こっていることをストーリーにして伝えています。べき論に終始するようになり、館内で起こっていることを見なくなってしまったので、ベストプラクティスを見つけて報告書に入れるようにしました。外部評価委員には多様なステークホルダーに向けた言葉を有する方に就いていただきました。誰に評価を届けようとしてきたのか、肝心の市民に届いているのか、今もモヤモヤしています。こういう施設がある地域とない地域で何が違うのか、地域と一緒に考えられる状況をつくる必要があります」と。委員からは、「秋田の取り組みにはさまざまな評価手法が入っている」などと感心するコメントが続きました。

評価学にも詳しい中村美亜さん(九州大学大学院芸術工学研究院教授)が、「評価学では方法論も大切だが、何に価値を見出すかや、評価をどう活用するかも重要。同じ土俵で価値判断ができるようにするにはコミュニケーションしかない。それが圧倒的に足りてないと思います」と締めくくり、参加者は納得の表情でした。

●アーティスト計60組がプレゼンテーション

おんかつ支援の登録アーティストは、現在、計118組に上ります。今回のフェスティバルでは、その中から、参加可能な登録年度の若い54組が顔を揃えました。今回初めてフェスティバルに参加したのは三原未紗子さん(ピアノ)、鈴木舞さん(ヴァイオリン)、北垣彩さん(チェロ)、山崎由貴さん(ユーフォニアム)、小野寺光さん(バス・バリトン)です。

小野寺さんは人間の声と似ているといわれるユーフォニアムの山崎さんと共演。アウトリーチで子どもたちに人気だったというパパゲーノ

とパパゲーノのコミカルな掛け合い(オペラ『魔笛』より)を披露しました。

邦楽演奏家^{(*)2}も5組参加しました。Dual KOTO×KOTO(箏デュオ)として長年活動し、ソロ活動に移行した山野安珠美さん(箏・十七絃)は、インドの演奏家と共演するために自作した曲を早稲田桜子さん(ヴァイオリン)、野尻小矢佳さん(パーカッション)と共演。箏の可能性をアピールしていました。また、尺八製作者でもあり、真竹で吹き口づくりのワークショップを行う大萩康喜さん(尺八)は楽器をわかりやすく解説するとともに、『スーホの白い馬』をモチーフにした『約束のウタ』を演奏し、参加者の興味を惹いていました。

ダン活全体研修会において行われた2027年度登録アーティストの公開プレゼンには初登録となる中村駿さん、竹内梓さんの2名に加え、岩渕貞太さん、井田亜彩実さん、Von・noズ、黒須育海さんが登場しました。

中村さんはブレイクダンスをルーツとし、近年はダン活の支援アーティスト・森下真樹さんの『ベートーヴェン 交響曲第9番 全楽章を踊る』で振付・演出助手なども務める実績のあるダンサーです。紙や壁などモノとの対話や、舞台を飛び出して楽屋まで使うワークで参加者の動きを引き出していました。また、近年、日仏を往来しながら活動している竹内さんは、自分の身体に触れて自分の身体を知り、記憶を掘り起こすという「触れる」をテーマにしたワークを行い、静かななかにも豊かな時間が流れていました。

今回は公立美術館に関する情報発信の場として、伊藤羊子さん(信州アーツカウンシル チーフコーディネーター)より県内の美術館等が連携して取り組んでいる「長野県シンビズム」を紹介いただき、所属を超えた学芸員同士の交流や地域ゆかりの作家を紹介する企画展づくりなどの実践事例を学びました。

来年度は、8月2日～4日の3日間、茅ヶ崎市民文化会館にて開催予定です。皆様のご参加をお待ちしています。

●地域創造フェスティバル2026プログラム概要

【1日目(7月28日)】

◎シンポジウム「評価はコミュニケーションだ!～公立文化施設における評価の取り組みと活用～」

大澤寅雄・吉本光宏(合同会社文化コモンズ研究所)、若林朋子(プロジェクト・コーディネーター)、中村美亜(九州大学大学院芸術工学研究院 教授)、坂本このみ(公益財団法人札幌市芸術文化財団)、三富章恵(NPO法人アーツセンターあきた)

◎公立美術館の先進的な事例紹介

「長野県シンビズムの取り組み」

伊藤羊子(信州アーツカウンシル)

◎ダン活プレゼンテーション

岩渕貞太、井田亜彩実、中村駿、竹内梓、Von・noズ、黒須育海

◎おんかつ支援プレゼンテーション

【ピアノ】新居由佳梨、今田篤

【弦楽器】石上真由子、北島佳奈、坂口昌優、高橋和歌、早稲田桜子(ヴァイオリン)/北垣彩(チェロ)

【管楽器】荒川洋、森岡有裕子(フルート)/田中拓也、田村真寛(サクソフォン)/山崎由貴(ユーフォニアム)

【声楽】梅津碧(ソプラノ)/糸賀修平(テノール)/ヴィタリ・ユシュマノフ(バリトン)/小野寺光(バス・バリトン)

【打楽器】塚越慎子(マリンバ)/新野将之(パーカッション)

【邦楽】藤重奈那子(箏・十七絃・地歌三絃)/山野安珠美(箏・十七絃)/棚原健太(歌三線)

【その他】福島青衣子(ハープ)/松尾俊介(クラシック・ギター)

【アンサンブル】泉真由×松田弦(フルート&クラシック・ギター)/Modétro Saxophone Ensemble(サクソフォン四重奏)/Quintet H(木管五重奏)

【2日目(7月29日)】

◎助成事業説明会

◎事業個別相談会

◎おんかつ支援プレゼンテーション

【ピアノ】新崎誠実、岩崎海奈、今野尚美、酒井有彩、高橋ドレミ、三原未紗子
【弦楽器】鈴木舞、瀧村依里(ヴァイオリン)/海野幹雄、奥田なな子、加藤文枝(チェロ)

【管楽器】吉岡次郎(フルート)/大石将紀(サクソフォン)/高見信行(トランペット)/加藤直明(トロンボーン)

【声楽】上田純子、乗松恵美(ソプラノ)/管家奈津子(メゾ・ソプラノ)

【打楽器】大熊理津子(マリンバ)/野尻小矢佳(パーカッション&ボイス)

【邦楽】森梓紗(箏・三絃・十七絃)/大萩康喜(尺八)

【その他】山本奈央(オカリナ)/関直弘介(クラシック・ギター)

【アンサンブル】カメハ(パーカッションデュオ)/アーバンサクソフォンカルテット、Quatuor B(サクソフォン四重奏)

*都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議を同時開催(7月28日)

*各日、来場者が交流する「情報交換会」を開催

財団からのお知らせ

●全国市町村国際文化研修所(JIAM) 「市町村長等・議会議員特別セミナー 『地域経営塾』」の募集開始

全国の市区町村長・副市区町村長および部長級職員、市区町村議会議員を対象に、全国市町村国際文化研修所(JIAM)、総務省との共催により「市町村長等・議会議員特別セミナー『地域経営塾』」を実施します。この事業は、自治体の長または幹部職員等が知っておくべき地域づくりにおける文化・芸術の役割等を学んでいただくことを目的としているものです。

セミナーは2日間にわたって行われ、1日目に、小林眞さん(学校法人光星学院副理事長 八戸学院大学学長・地域共創学部教授)による講演「八戸のまちの可能性について考えてき

たこと」を予定しています。また、地域創造の登録アーティストQuintet H(クインテット・アッシュ/木管五重奏)の皆さんによるミニコンサートでは、地域創造の事業で行っているような、生の音楽の素晴らしさや楽しさを多くの人たちに届けるアウトリーチを体験していただきます。

研修の詳細および参加方法は、JIAMホームページ(<https://www.jiam.jp>)をご確認ください。

[研修日程] 2026年10月26日(月)、27日(火)

[会場] 全国市町村国際文化研修所(JIAM)

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎2-13-1

[申込締切] 9月18日(金)

[主催・問い合わせ](公財)全国市町村研修財団

全国市町村国際文化研修所(JIAM)教務部

Tel. 077-578-5932

●令和8年度「リージョナルシアター事業」がスタート

演出家等の演劇の表現者を公共ホールに派遣し、ホール職員等と共にアウトリーチやワークショップを企画・実施するこの事業は、演劇の幅広い可能性について、ホール職員等の理解を深め、演劇の手法を用いて地域活性化の試みを後押しすることを目的としています。今年度は5団体が参加し、まちの規模もミッションもさまざまな中で、担当者が派遣アーティストと対話を重ねながら企画した事業が、順次スタートしました。

大阪市(大阪市立芸術創造館)では、小学校でのアウトリーチや館のある複合施設職員対象のインリーチ、ファシリテーター育成講座と多彩な事業を展開しました。育成講座では、参加者はまず派遣アーティストの福田修志さんによるレクチャーと模擬ワークショップを受けた後、実際に福田さんが小学校で実施するアウトリーチを見学。児童たちが3つのグループに分かれて、3枚の写真から「何かを探しに行くお話」をつくるワークに取り組み、アイデアを出しあいながら物語を自由に発想する様子に、育成講座参加者からは「レクチャーで聞いた内容が実際に行われる様子を見られて勉強になった」「プログラムづくりの参考になった」との感想が聞かれました。

山梨県甲斐市(甲斐市双葉ふれあい文化館)では、派遣アーティストの越智良江さんによる中学校でのアウトリーチと、剣道スポーツ少年団の団員と関係者を対象としたワークショップを実施しました。竜王北中学校では、文化祭の学年劇出演者の1～3年生を対象に2日間にわたって実施。まずは自分を形作るものを個々で書き出した「自分マップ」を作成した後、グループワークでは短い台本を基に登場人物のマップや物語を想像し、出来上がった人物像や背景を発表しました。その後、基になった台本の台詞を読みあうことで、同じ台詞を読んでいるのに、背景が違うことで全く別の物語に聞こえる面白さや、人それぞれの考えを知りアイデアを組み合わせることで劇が出来上がる楽しさを体感しました。

その他の地域でも、親子やシニア対象のワークショップ、ホールの機能を活かしたワークショップなどが実施される予定ですので、興味のある方はぜひご視察ください。



アウトリーチの様子(左:大阪市立生江小学校/右:甲斐市立竜王北中学校)

●令和8年度リージョナルシアター事業

○主会場/派遣アーティスト

●札幌市(札幌市教育文化会館/有門正太郎)

●山梨県甲斐市(甲斐市双葉ふれあい文化館/越智良江)

●愛知県大府市(おおぶ文化交流の杜all obu/樋口ミユ)

●大阪市(大阪市立芸術創造館/福田修志)

●宮崎県西都市(西都市市民会館/志賀亮史)

○アドバイザー兼派遣アーティスト

●多田淳之介(演出家、東京デスロック主宰)

●田上豊(劇作家・演出家、田上バル主宰)

○派遣アーティスト情報



https://www.jafra.or.jp/system/artists/index?genre=301®istered_year=2025

○問い合わせ

芸術環境部 藤原(加)・嶋崎

Tel. 03-5573-4124

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●令和8年度「地域創造セミナー」スタート

文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくり、また、文化・芸術関係者の広域的な連携強化を目的とした研修会に地域創造が講師の派遣等による支援を行う地域創造セミナー。

今年度の1回目は7月21日に秋田地方総合庁舎にて開催しました。講師に一般社団法人まなびとまちと代表理事の宮城潤さんをお迎えし、「アートや文化で地域とつながる・未来へつなぐ～多様な主体と協働する創造拠点～」をテーマとする講義や、講師の宮城さんが取り組んできた那覇市若狭公民館での事例紹介、参加者によるグループワークを実施しました。グループワーク前には秋田県文化振興課より県の文化振興ビジョンの説明があり、県内の自治体や施設職員が各地域と施設

における“いま”を再認識し、その中で自分たちができることは何か、意見交換を行いました。

今年度の地域創造セミナーは、三重県、宮城県でも開催を予定しています。



地域創造セミナー秋田県の様子(講師:宮城潤氏)

●令和8年度「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」がスタート

地域交流プログラム(アウトリーチ、公募ワークショップ)を実施するAプログラム、市民参加作品を創作し上演するBプログラム、アーティストのレパートリー作品を上演するCプログラムを、年度ごとに選択して継続的に事業の実施が可能な「ダン活」。今年度の実施団体は10団体(右欄参照)。6月から各地で事業がスタートしています。

Bプログラムの島根県安来市(安来市総合文化ホール アルテピア)では、地元で長く受け継がれてきた「たたら」を題材に、康本雅子さんと10～70歳代まで幅広い世代の一般公募参加者が作品の創作に取り組んでいます。6月に行われた1回目のクリエイションでは、各地の民族楽器を奏でる打楽器奏者の多彩で豊かな音色に耳を傾け、ダンサーと共に身体を自由に解放していくワークが行われました。さらに、クリエイションの中では、本作品のために制作された、たたら製鉄で使用される「ふいご」をモチーフとした舞台美術作品を参加者全員で囲み、作品世界への理解を深めるとともに、8月の本番に向けて参加者同士の結束を深めました。

高知県香南市(夜須公民館 マリンホール)では、アーティストに2人組のダンスカンパニー Von・noズを迎え、Aプログラムを実施。アウトリーチは児童養護施設愛童園と、地域活性化の活動に取り組むJAや商工会、演芸会実行委員の計4先を対象に行い、子どもから大人まで言葉を使わない身体によるコミュニケーションとしてのダンスを体験しました。また、公募ワークショップは、「朝活」をテーマに土曜日の午前中に開催。体だけでなく

脳や心をストレッチし、リフレッシュする爽やかなひとときとなりました。設立から42年を迎える夜須公民館は来年度、近隣の高台に移転予定。愛童園以外のアウトリーチ、ワークショップともに夜須公民館 マリンホールの舞台上が実施場所となったことで、参加者たちは客席を見渡し、ホールとの思い出も振り返っていました。



上:公演「たたら」のクリエイション様子(Bプログラム/安来市総合文化ホール アルテピア/アーティスト:康本雅子)
下:公募ワークショップの様子(Aプログラム/夜須公民館 マリンホール/アーティスト:Von・noズ)

●地域創造セミナーに関する問い合わせ
芸術環境部 益子
Tel. 03-5573-4066

●令和8年度公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)実施団体
(主会場/アーティスト/日程)

○Aプログラム

●高知県香南市(香南市夜須公民館/Von・noズ/7月1日～4日)

●滋賀県(滋賀県立文化産業交流会館/Von・noズ/8月19日～22日)

●熊本県大津町(大津町生涯学習センター/黒須育海/9月9日～12日)

●奈良県奈良市(なら100年会館/井田亜彩実/10月7日～10日)

●沖縄県名護市(名護市民会館/橋本真那/10月12日～15日)

●福岡県中間市(なかまハーモニーホール/井田亜彩実/11月18日～21日)

○Bプログラム

●島根県安来市(安来市総合文化ホール アルテピア/康本雅子/6月12日～14日、8月19日～23日)

●熊本県宇土市(宇土市民会館/岩淵真太/7月10日～12日、未定)

●福島県いわき市(いわき芸術文化交流館アリオス/浅井信好/10月9日～12日、12月16日～20日)

●広島県東広島市(東広島芸術文化ホールくらら/黒須育海/2027年1月8日～10日、2月2日～7日)

○問い合わせ

芸術環境部 波多野・伊藤

Tel. 03-5573-4077・4075

dankatsu@jafra.or.jp

※お詫びと訂正

●8月号(2026.7.25発行)表紙に以下の誤りがありました。お詫びして訂正させていただきます。

調査研究事業報告

【誤】2026年度「公立文化施設における政策評価等のあり方に関する調査研究」中間報告

【正】2025年度「公立文化施設における政策評価等のあり方に関する調査研究」中間報告

●6月号(2026.5.25発行)P12「今月のレポート」に以下の誤りがありました。お詫びして訂正させていただきます。

本文3行目

【誤】～大回顧展「秀島由己夫展」ダークファン

【正】～大回顧展「秀島由己男展」ダークファン

地域通信

●地域通信欄掲載情報について
最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
芸術環境部 岩下・益子

●2026年11月号情報締切
9月15日(火)

●2026年11月号掲載対象情報
2026年11月～27年2月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●札幌市

札幌芸術の森美術館
〒005-0864 札幌市南区芸術の森2-75
Tel. 011-591-0090 坂本
<https://www.hanatokemono.com/>

札幌芸術の森開園40周年記念 Flowering Garden「花と獣いろとかたち」

開園40周年を記念した展覧会。草花や動物をテーマに、美術家たちの眼差しを通してさまざまな「いろ」や「かたち」で表現された花と獣の世界を紹介する。美術館展示室のみならず、園内屋外スペースにも展示し、札幌芸術の森野外美術館では道内作家を中心に今ここでしか見られないインスタレーション作品なども楽しむことができる。

[日程]7月11日～9月27日
[会場]札幌芸術の森美術館、札幌芸術の森野外美術館、佐藤忠良記念子どもアトリエ、有島武郎邸



土屋仁応《牡羊》(2012年/樟、彩色、水晶/個人蔵)

●青森県青森市

青森県立美術館
〒038-0021 青森市安田字近野185
Tel. 017-783-3000 櫻庭
<https://www.aomori-museum.jp/>

装飾する魂 ユーロ=アジア世界をつなぐ文様の宇宙 縄文、ケルトから、ねぶたまで
世界の装飾文化・文様を調査し

てきた多摩美術大学名誉教授・鶴岡真弓氏監修の下、人類が数万年以上にわたって続けてきた「装飾」に焦点を当てた展覧会。アイルランドのケルト美術から日本列島の縄文遺跡から出土した土器や土偶、ねぶたまで、「ユーロ=アジア世界」に広がる装飾表現を紹介する。国宝「中空土偶」や本展のために制作された新作ねぶたも展示される。
[日程]7月11日～9月27日
[会場]青森県立美術館

●青森県八戸市

八戸ポータルミュージアムはっち
〒031-0032 八戸市三日町11-1
Tel. 0178-22-8228 伊多波
<https://hacchi.jp/>

KAGURA DAY's @ hacchi 八戸圏域山伏神楽再興委員会 『大演舞会』

地域の伝統的な「もの・ことづくり」を紹介するはっちの伝統文化プロジェクトの一環で、次世代への伝統継承に取り組む八戸圏域山伏神楽再興委員会と共に、神楽の魅力を紹介する公演を開催。5日間、日替わりで異なる神楽組が登場。神楽上演をはじめ、権現舞の体験や地域での伝承活動を紹介するトークなど、多彩なプログラムを通して神楽の魅力をお届けする。
[日程]9月19日～23日
[会場]八戸ポータルミュージアムはっち



白銀四頭権現神楽(八戸市白銀地区)

●仙台市

東京エレクトロンホール宮城
〒980-0803 仙台市青葉区国

分町3-3-7

Tel. 022-225-8641 永原・甘粕
<https://miyagi-hall.jp/>

Swing! ジュニアジャズフェスタ～子どもたちがつくる未来のステージ～

「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」(9月12日、13日)の2日目に県内の小中高校生バンドが集まり、若さあふれるジャズ演奏を披露する。子どもたちが演奏だけでなく、運営スタッフや会場装飾物の作成等にも携わり、自分たちの手でつくる特別なステージ。コンサートがどのようにつくられているのかを、実際の現場で学ぶことができる。

[日程]9月13日
[会場]東京エレクトロンホール宮城(宮城県民会館)

●山形県鶴岡市

荘銀タクト鶴岡
〒997-0035 鶴岡市馬場町11-61
Tel. 0235-24-5188 伊藤
<https://tacnal-events.com/>

タクなる～夢現～

荘銀タクト鶴岡の会場の全館を利用し、音楽・身体パフォーマンス・作品展示と、鶴岡の食文化が一堂に会するアートイベント。庄内や鶴岡にゆかりあるアーティストが集結し、ジャンルを超えた表現をお届けする。会場名の「タク」と「～したくなる」を掛け合わせた名称のもと、来場者とアーティストとの交流で表現者と鑑賞者の境界を溶かし、新しいコミュニティを醸成する。
[日程]10月3日(前夜祭)、4日
[会場]荘銀タクト鶴岡(鶴岡市文化会館)

関東

●さいたま市

埼玉県立近代美術館
〒330-0061 さいたま市浦和区常盤9-30-1

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

Tel. 048-824-0111 菊地・篠原
<https://pref.spec.ed.jp/momas/>
密やかな美 小村雪岱のすべて
 埼玉県出身の美術家・小村雪岱(1887～1940)は、書籍の装幀や挿絵、舞台装置、映画の美術考証など幅広い分野で活躍した。本展では代表作の数々を紹介するとともに、泉鏡花や邦枝完二、六代目尾上菊五郎らとの交流にも着目。多彩な創作活動の背景を探りながら、約25年にわたる画業の軌跡を約700点の作品・資料でたどる。
 [日程] 7月11日～9月23日
 [会場] 埼玉県立近代美術館

北陸・中部

●富山県黒部市
 黒部市美術館
 〒938-0041 黒部市堀切1035 (黒部市総合公園内)
 Tel. 0765-52-5011 竹下和貴子
<https://kurobe-city-art-museum.jp/>
クロビ・郷土ゆかりの美術展 「ゆかり」っちゃん、なんけ?
 「郷土ゆかり」という言葉を手がかりに、「ゆかり」とは何かを改めて考え、黒部市と美術との関係を見つめ直す企画展。黒部市出身の作家をはじめ、出身地は異なるものの市内に拠点を構えて制作した作家や、市内でのリサーチをもとに作品を生み出した作家らを紹介する。会期中一部展示替えあり(前期:～8月16日、後期:8月18日～)。
 [日程] 7月18日～9月23日
 [会場] 黒部市美術館

●石川県金沢市
 石川県音楽文化振興事業団
 〒920-0856 金沢市昭和町20-1
 Tel. 076-232-8111 大海
<https://www.oek.jp/>
開館25周年記念 「萬斎のおもちゃ箱」vol.5 MANSAI with OEK スペシャルコンサート～能登を繋ぐ～

石川県立音楽堂芸術監督・野村萬斎とオーケストラ・アンサンブル金沢(OEK)によるプロジェクト「萬斎のおもちゃ箱」は、能狂言の手法を活かして、さまざまな舞台を制作・発信してきた。開館25周年を迎えた今年は、能登復興への想いを込めた「MANSAI ボレロ」を中心に、能登の魅力やベトナムの風景をオーケストラの音楽に乗せてお届けする。
 [日程] 9月5日
 [会場] 石川県立音楽堂

●長野県茅野市
 茅野市美術館
 〒391-0002 茅野市塚原1-1-1 (茅野市民館内)
 Tel. 0266-82-8222 中田
<http://www.chinoshiminkan.jp/>
寿齢讃歌 一人生のマエストロ —写真展21

クラシックの巨匠などを撮影してきたことで知られる諏訪市出身の音楽写真家・木之下晃(1936～2015)のプロデュースで2005年度から始まった、高齢者を被写体とした公募写真展。この写真展をライフワークとしてきた木之下が没後も、写真家の英伸三、石川直樹へと引き継がれ、市民サポーターが中心となって開催してきた。人生を積み重ねた高齢者の奥深い表情や、生活を営む姿を次世代に伝えていくことを目指し、講師から応募者への講評を経て、応募作品すべてを展示する。
 [日程] 9月10日～22日
 [会場] 茅野市美術館



沖田一成《三代目で緋み物大好き》(本年度応募作品)

●名古屋市
 愛知県文化振興事業団
 〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2
 Tel. 052-211-7552 福島
<https://www.stage.aac.pref.aichi.jp/>
愛知県芸術劇場製作 10周年記念凱旋公演 ダンス&ラップ『ありか』

ダンサー・振付家の島地保武(愛知県芸術劇場ダンスアーティスト)と、ラッパーの環ROYによる『ありか』(2016年初演)が愛知に凱旋。踊りと言葉の起源を問い続けた本作は、日本各地に加えフランスや香港でも上演を重ね、踊りと言葉の起源への問いを深めながら変化を続けてきた。10年の歳月と30回以上の上演を経て、洗練し続けた本作を初演の地で披露する。
 [日程] 9月19日、20日
 [会場] 愛知県芸術劇場



提供:愛知県芸術劇場
 ©Tai Kwun ©Kurtachio

●愛知県豊橋市
 豊橋文化振興財団
 〒440-0887 豊橋市西小田原町123
 Tel. 0532-39-3090 吉川
<https://www.toyohashi-at.jp/>

穂の国とよはし芸術劇場PLAT プロデュース 舞台手話通訳付き公演『楽屋一流れ去るものはやがてなつかしき』
 2022年に上演した清水邦夫の代表作『楽屋一流れ去るものはやがてなつかしき』(演出:樋口ミユ)を、舞台手話通訳に加え、新たに舞台上日本語字幕付きで再演する。また、視覚に障がいのあるお客様を対象とした舞台

説明会を実施し、聴覚・視覚の両面から鑑賞支援を充実させることで、より多様な人々が作品を楽しめる鑑賞環境を整える。
 [日程] 9月22日、23日
 [会場] 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT



『楽屋一流れ去るものはやがてなつかしき』(2022年9月) 撮影:伊藤華織

近畿

●大阪府富田林市
 富田林市文化振興事業団
 〒584-0084 富田林市桜ヶ丘町2-8 (すばるホール内)
 Tel. 0721-25-0222 北野
<http://subaruhall.org/>

NATIVE
 「NATIVE SENSE」による、あらゆる身体、あらゆる年齢にかかわらず、ありのままの生きた“踊る”ことの本質と可能性を追求した舞台作品『NATIVE』。本作には年齢や性別、障がいの有無を問わず市内外から集まった公募ダンサーが参加。また、市内のさまざまなジャンルのダンス団体から成る富田林市ダンス連盟のメンバーによるナンバーも上演される。
 [日程] 9月27日
 [会場] すばるホール

中国・四国

●島根県松江市
 しまね文化振興財団(島根県民会館)
 〒690-0887 松江市殿町369 サンラポーむらくも3F 仮事務所
 Tel. 0852-22-5502 山本
<https://www.cul-shimane.jp/hall/>
しまね伝統芸能祭2026 国宝松江城 民謡ライブ

津軽三味線・和太鼓・ギターなどによるスタイリッシュなアレンジで民謡を発信する「東京民謡倶楽部」と松江市美保関町に伝わる民謡を歌い継ぐ「関乃五本松節保存会」による2部構成の野外ライブ。管理施設(鳥根県民会館)の改修工事期間中だからこそ実現した、松江城ならではの特別なロケーションを活かし、伝統芸能の新たな魅力と地域文化の価値を発信する。

[日程] 9月11日

[会場] 国宝松江城 二の丸上の段 特設ステージ



東京民謡倶楽部

●香川県高松市

香川県県民ホール

〒760-0030 高松市玉藻町9-10

Tel. 087-823-3131 横山

<https://kenminhall.com/>

玉藻能2026

能楽とオーケストラ『静御前』

これまで能楽講座や古典作品の上演により、能や狂言の普及に取り組んできたレクザムホールが、より裾野を広げるため上演する新作能公演。讃岐の地で生涯を終えた静御前をテーマにした本作(演出・脚本: 伶以野陽子)を、オーケストラによる演奏と四季折々の風景の映像を交えた作品として新たな演出で創作し、県内で活動する管弦楽団と合唱団と共に上演する。

[日程] 9月23日

[会場] レクザムホール(香川県県民ホール)

九州・沖縄

●福岡県久留米市

久留米シティプラザ

〒830-0031 久留米市六ツ門町8-1

Tel. 0942-36-3000 韓

<https://kurumecityplaza.jp/>

プラザあちこち写真館vol.2

写真家・齋藤陽道「あなたの好きを掘ると、新しいあなたがいた」

プラザ館内のオープンスペースでアーティストと市民が一緒につくり上げる写真展示プロジェクト。第2弾は、手話を言語とする写真家・文筆家の齋藤陽道を迎え、2歳～70代の参加者が手話などで対話し、自分や相手の“好き”と向き合いながら撮影した写真を等身大で展示する。“好き”をきっかけに生まれる交流や、多様な見方、感じ方の豊かさをプラザの空間に映し出す。

[日程] 8月29日～9月27日

[会場] 久留米シティプラザ

●鹿児島県鹿児島市

宝山ホール

〒892-0816 鹿児島市山下町5-3

Tel. 099-223-4221 大山

<https://www.houzanhall.com>

Performing Arts Festival vol.1

アーティストバンク登録アーティストによる舞台芸術の祭典
～音楽編～

鹿児島県文化振興財団および宝山ホールが運営するアーティストバンク登録アーティストの支援プロジェクト。同ホールが開館60周年を迎えるにあたり、新規登録アーティストのお披露目事業として実施していた「若葉Festival」をリニューアル。登録アーティスト同士が共演者を募って結成したユニット5組・22名が出演する。

[日程] 9月26日

[会場] 宝山ホール

特集 アートプロジェクト・ 芸術祭

全国各地で開催されている多彩なアートプロジェクト、芸術祭等を紹介します。

※開催地の北から順に掲載。

㊤は会場、㊤は問い合わせ先です。

(➡は地域創造助成事業)

●北海道白老町 9月5日～13日

飛生芸術祭2026

旧飛生小学校の木造校舎と周囲の森を活用した「飛生の森」を舞台に、2009年から毎年秋に開催されている芸術祭。森全体を一つの作品としてとらえ、長い年月をかけて創造を重ねながら、年に一度、森や校舎に展開される作品群が公開される。9月12日には、飛生アートコミュニティの設立40周年を記念した特別企画「トビウの祝祭」も開催。

㊤㊤ 飛生アートコミュニティ
presstobi@gmail.com

●群馬県前橋市

9月19日～12月20日

第1回 前橋国際芸術祭 2026

「めぶく。Where good things grow.」

前橋のまちを舞台に2年に1度の芸術祭がスタートする。2016年に策定された前橋市のまちづくりビジョンのコンセプト「めぶく。」をテーマに、アートとともに積み重ねてきた再整備による都市の変容に目を向ける。アーツ前橋や白井屋ホテルなどの象徴的な現代建築のほか、アートや詩、演劇、音楽などのアーティストを招聘し、前橋の日常に息づく経験や記憶がグローバルな問いと出会い、次の時代に続く魅力を育む場を目指す。

㊤前橋市内各所(アーツ前橋、まえばしギャラリー、白井屋ホテルほか)

㊤前橋国際芸術祭 2026 実行

委員会

info@machinaka.agency

●東京都墨田区

9月4日～12月20日

すみだ五彩の芸術祭

「発気揚々」(はっきようよう)をコンセプトに、4カ月にわたって開催する総合芸術祭。“すみだらしざ”にこだわり、地域資源をアートの視点でとらえ直して新たな魅力を発見する。会期前から地域コーディネーターが交流の場を育み、誰もが芸術祭に参加しやすいような取り組みを展開。会期中は参加型・展示・公演等多彩なプログラムを楽しめる。

㊤墨田区内各所(千葉大学墨田サテライトキャンパス、東武博物館ほか)

㊤すみだ五彩の芸術祭 事務局

Tel. 03-5608-2821

●東京都豊島区

10月9日～11月3日

舞台芸術祭

「秋の隕石2026東京」

池袋の東京芸術劇場を中心に展開される舞台芸術フェスティバル。2026年度より東京芸術劇場舞台芸術部門芸術監督に就任した岡田利規がアーティスト・ディレクターを務め、国内外の多様な舞台芸術作品13演目による「上演プログラム」、レクチャーやワークショップなどの「上演じゃないプログラム」、その両方を支える「ウェルカム体制(=来場サポート)」の3つを展開。芸術文化における国際交流を活性化させることを目指す。

㊤東京芸術劇場、GLOBAL RING THEATRE(池袋西口公園野外劇場)

㊤東京舞台芸術祭実行委員会

Tel. 03-6812-1663(11:00～17:00)

※土日祝および東京芸術劇場休館日を除く

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

●横浜市 9月10日～10月12日 黄金町バザール+上大岡バザール2026 交差する私たち—アートでつながるまち—

「黄金町バザール」は、2008年にスタートしたアートによるまちづくりの可能性を実践してきたアートフェスティバル。昨年度から京急上大岡駅(京急百貨店・ウィング上大岡)にもエリアを拡大。今年は国内外23組のアーティストが参加。アートとコミュニティの関わりを軸に、人と人、人とまち、まちとまちが交差することで生まれる多様な関係性や、その先に広がる可能性を探る。

㊦黄金町会場：京急線日ノ出町駅、黄金町駅間の高架下スタジオ、周辺のスタジオ、地域商店／上大岡会場：京急百貨店・ウィング上大岡

㊦黄金町エリアマネジメントセンター Tel. 045-261-5467

●新潟県佐渡市

9月12日～11月15日

GALAXY SADO ART 2026

3年に1度の本祭を迎える「さどの島銀河芸術祭2027」を見据え、通年事業の一環として開催する「GALAXY SADO ART」では、佐渡の歴史や自然を紐解く作品展示やイベント、ツアーなどの体験企画を展開。単なる鑑賞という行為を超えて、自らと向き合い、自らの意識を寛容させていく奥深い文化体験を佐渡から世界へ発信していく。

㊦佐渡島内各所

㊦GALAXY SADO ART 2026 総合案内

Tel. 0259-36-0003 (10:00-17:00)

●山梨県内各地

10月17日～11月15日

富士山芸術祭2026

偉人ゆかりの地や歴史的建造物、美術館、地域文化拠点などを舞台に、現代アートと伝統工

芸、地域の記憶、そして富士山をはじめとする山梨の風景を横断的に結ぶ文化芸術プロジェクト。県内5エリア(峡中・峡東・峡北・峡南・富士五湖)にまたがる広域回遊型の構成により、各地に点在する文化資産を“点”ではなく“面”として体験できる、新たな芸術祭を目指している。

㊦山梨県内17会場

㊦富士山芸術祭2026 実行委員会 Tel. 090-8688-9028

●長野県御代田町

8月1日～9月27日

浅間国際フォトフェスティバル 2026 PHOTO MIYOTA

浅間山麓の美しい自然を舞台に開催される国際的な写真芸術祭。2018年に始まり、国内外の写真家による多彩な作品を屋内外で展示するほか、ワークショップやイベントを通して、写真の楽しさを世界へ発信している。今年はメイン会場の文化複合施設MMoP(モップ)を飛び出し、御代田町内のさまざまなエリアへ展示会場を拡大。

㊦MMoPほか御代田町内各所
㊦浅間国際フォトフェスティバル 2026 PHOTO MIYOTA実行委員会(御代田町産業経済課内)

Tel. 0267-32-3113



©Henriette Sabroe Ebbesen

●岐阜県下呂市

9月11日～11月8日

下呂 Art Discovery 2026

総合ディレクターに北川フラムを迎え、2024年に「南飛騨 Art Discovery」として始まった「日本最南部」のアートフェスティバル。

今年は開催エリアを拡大、14の国と地域から59組のアーティストが参加し、豊かな森や下呂温泉街、飛騨萩原宿の古い町並み、総ヒノキ造りの廃校を舞台に多彩なアートを展開。地域に内在する価値を掘り起こし、その魅力を高めながら地域活性化につなげる。シャトルバスや公式ツアーも用意され、ゆったりと作品鑑賞を楽しめる。

㊦下呂市内各所(旧湯屋小学校、萩原商店街 ほか)

㊦下呂アートディスカバリー実行委員会 Tel. 0576-24-2222



廃校を舞台としたアートプロジェクト「みんなの学校」の舞台となる旧湯屋小学校

●兵庫県豊岡市、養父市、香美町、朝来市、新温泉町

9月18日～27日

豊岡演劇祭2026

2020年の開催以来、温泉街や海岸、高原、神社に伝わる木造の農村舞台、観光列車内など、いたる所を舞台として活用し、地域の魅力を最大限に引き出す回遊型の演劇祭。7年目を迎える今回は、「ゆっくり、どっぷり、ちゃっかり。」をテーマに、フェスティバルディレクター・平田オリザのセレクトによる公式プログラムや公募で選ばれたフリンジプログラムに国内外から70組を超える団体が参加。観劇だけでなく



豊岡市役所本庁舎前での「フェスティバルナイトマーケット」 ©トモカネアヤカ

く、地域への滞在も楽しむことができる。

㊦但馬地域各所(城崎国際アートセンター、江原河畔劇場 ほか)

㊦豊岡演劇祭実行委員会

Tel. 0796-21-9016

●広島市 9月4日～10月11日

風の演劇祭 HIROSHIMAシアターフェスティバル2026

地域の賑わい創出や地域の演劇団体の紹介を目的に、2024年に初開催。今年が2回目で、今後は隔年開催を予定。出演団体は一般公募により選定し、広島・東京ほか全国各地から5団体が参加。7つのプログラムを実施する。作品上演と併せて、「鑑賞サポート研修会」という名のワークショップや観客を交えた公演後セッションなどの地域交流プログラムが行われるほか、提携プログラムとして、短編演劇を競う「劇王」の中国ブロック大会も開催(9月13日)。

㊦㊦JMSアステールプラザ

Tel. 082-244-8000

●北九州市

9月23日～11月21日

2026北九州国際音楽祭

北九州市制25周年を記念して1988年に創設された伝統の音楽祭。今年は「その先へー音が次代をヒラくとき」をキャッチフレーズに、世界で活躍する若手演奏家たちが集結する。室内オーケストラやオペラ『椿姫』ハイライトの上演、出光美術館(門司)との連携コンサートなど、さまざまなコンサートを開催。幼稚園・小学校・中学校を対象とした教育プログラムも展開され、誰もが音楽に親しめる機会を創出する。

㊦北九州市立響ホール、西日本工業倶楽部 ほか

㊦北九州市芸術文化振興財団

Tel. 093-663-6661

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げて
レポートします

茨城県水戸市

水戸芸術館

『いつだって今だもんーきのうとあしたのラブストーリー』



『いつだって今だもんーきのうとあしたのラブストーリー』 撮影：刑部アツシ

● 谷川俊太郎の「ことば」と「おと」「いつだって今だもんーきのうとあしたのラブストーリー」

【主催】(公財)水戸市芸術振興財団

【会期】2026年7月25日～29日

【会場】水戸芸術館ACM劇場

【助成】(一財)地域創造ほか

【脚本】谷川俊太郎

【演出・脚色】橋本昭博

【音楽】谷川賢作

● 水戸芸術館

1990年開館。水戸市制100周年記念で建築された音楽・演劇・美術の複合文化施設。設計は磯崎新。100メートルの塔をシンボルに、コンサートホールATM(620席～680席)、ACM劇場(320席～580席)、現代美術ギャラリー、パイプオルガンが設置されたエントランス等で構成。日本で初めて芸術監督制を導入したことで知られ、専属楽団(水戸室内管弦楽団)、劇団ACMを有する。演劇部門では、水戸発のプロデュース公演、児童文学を元にした音楽劇のACMファミリーシアター、4年生全員を招く小学生のための演劇鑑賞会、ACMメンバーによる絵本の読み聞かせ・ゆうくん和マットさんのおはなしキャリーボックス、水戸子どもミュージカルスクール、朗読スタジオ、地域の若い人材を支援するプロジェクトなどを実施。

水戸芸術館が詩人の谷川俊太郎作『いつだって今だもんーきのうとあしたのラブストーリー』(1985年初演)を音楽劇としてプロデュース。7月25日から29日まで水戸芸術館ACM劇場で上演し、多くの親子連れが遊び心いっぱいのステージを満喫した。音楽に俊太郎の息子であり、音楽家の谷川賢作を迎えたほか、演出家の橋本昭博をはじめ同館ゆかりのメンバーが多数参加した本作について取材した。

開場すると、文字がデザインされたメルヘンな衣装を着た出演者たちが総出で来場者をお出迎え。舞台上には6月の関連ワークショップで市民と製作したカラフルな幕が下がり、「あ」「ん」などの巨大文字が宙に浮き、会場まると詩人の世界になっていた。音楽は生演奏で、開演前には谷川の進行により「パピピペパ、パピパペポピ」と歌う劇中歌の練習も行われた。

主人公は、2000年前の過去の世界で王様や道化と暮らし、退屈している王子と、核戦争後の未来の世界でロボットのお母さんと暮らし、歌うことしかできない少女マリ。ある日、聞こえてきた歌声の主を探しに出掛けた王子は時空を越えて少女と出会い、2人は過去でも未来でもなく、「今、ここ」で生きることに希望をつなぐ。

1996年から演劇部門学芸員を務め、2025年に生え抜きとして初めて芸術監督に就任した櫻井琢郎さんは次のように話す。

「90年に開館して以来、貸館を行わず、すべて主催事業で運営してきた。2013年からは高橋知伽江芸術監督(当時)がプログラムの幅を広げようと音楽劇に力を入れ、オリジナル作品、児童文学を原作にしたファミリーシアター、水戸子どもミュージカルスクールなどに取り組み、人気レパートリーも生まれた。また、いろいろなかたちで地域の人材育成も行ってきたが、その中のひとりが橋本さん(ひたちなか市出身)だった。高校時代はダンスワークショップを受けに来ていて、その後、俳優として出演してもらい、2023年の『ミュージカル水戸黄門』で初めて演出を依頼した。今回の企画は、こうした

流れが合わさったものだ」

2011年に立ち上げた自身のユニットの旗揚げ公演が谷川作品だったという橋本は、「俊太郎さんのサイン会に並んで、この本を上演したいと直談判したらサインの横に電話番号を書いてくださった。そこから連絡を取るようになり、新作を書き下ろしてもらう約束もしていたけど、実現できなかった」。

その話を聞いた櫻井さんは、24年8月に橋本と共に『おならうた』や『朝のリレー』などを題材にした市民参加ワークショップを実施。それを踏まえ、『いつだって今だもん』を音楽劇にすることを目指し、初演当時20歳代で作曲を担当した谷川賢作に協力をお願いした。

「みんなでやろうという賢作さんの一言で」(橋本)参加年齢を問わずに募った参加者と一緒に25年8月からワークショップを始め、12月に出演者10人、音楽隊30人によるリーディング公演に挑戦。そして今年度、本格的な音楽劇としてプロデュースした。外部キャストに加え、劇団ACMメンバー(大内真智)、ミュージカルスクール講師(歌唱指導)らが参加。子どもの代表としてのびのびと舞台で遊んでいたのも園児の頃から同館の絵本読み聞かせに通っていた小学2年生の星本悠さん、3年生の加藤結風さんで、水戸芸術館の蓄積が感じられる座組になっていた。

谷川は、「解釈は千差万別が面白いと父はよく言っていた。この作品も未来と過去がメビウスの輪のようにになっているが、谷川俊太郎の言葉にあるそういう両面性が面白い。橋本さんには谷川作品へのリスペクトがあるから、父はきっと喜んだと思う」と楽しそうだった。

俊太郎の音楽的な言葉と賢作の生演奏が有機的に融合し、誰もがもつ子ども心に染み渡る豊かなステージだった。櫻井さんは、「こういう作品を劇場のレパートリーにして他館での上演を目指していきたい。来年度は谷川の詩を構成し、もっと音楽的なステージに挑戦したい」という。谷川作品が水戸芸術館の代名詞になる日がくるまで続けてほしいものだ。(横堀広彦)